

7.

学術成果の発信

- 1) 学術雑誌『ジェンダー研究』
- 2) プロジェクト報告書
IGS Project Series による
成果刊行

1) 学術雑誌『ジェンダー研究』

編集方針を一新

ジェンダー研究のグローバルな言説空間創成を目指す

『ジェンダー研究』を刷新し、国際的な学術誌に

2017 年春、ジェンダー研究所は、学術誌『ジェンダー研究』の刷新へと踏み出した。大学の枠を超え、国の枠を超え、世界へ。ジェンダー研究の成果を発信するとともに、海外の優れた今日的な研究を国内に紹介し、グローバルなジェンダー研究の発展に寄与する。そんな国際的な学術誌を目指し、編集方針から表紙のデザインにいたるまで、すべてを一新することを決定したのである。以後、編集委員会と編集事務局による、1 年にわたる奮闘が始まった。

ルールを変更し、ビジョンを新たに

最初に着手したのは、新雑誌のビジョンである編集方針と、投稿ルールである投稿規定の改定である。

投稿資格を撤廃し、国内外を問わず、学際的に女性学・ジェンダーに関する研究に従事する者すべてが、投稿できるようにした。また、使用言語を英語に限定する案も検討された。しかし、ジェンダー研究の成果を日本語で発表できる専門的な学術誌が未だ少ないことや、国内研究者にとって英語論文執筆のハードルが高い現状を踏まえ、日本語と英語を基本的な使用言語とすることにした。加えて、海外からも投稿しやすいように、投稿はメール投稿とすることとし、ジェンダー研究所のウェブサイトにも、日英の投稿専用フォームを新設した。

編集委員会規定も改定し、学外ならびに海外の、優れた研究者を編集委員としてお招きした。特集企画や論文審査等について、高度に専門的な立場からのご意見を頂戴し、編集に反映する体制を整えたのである。

◆『ジェンダー研究』とは

ジェンダー研究所が刊行するジェンダー研究専門の学術誌。女性文化資料館が 1979 年に創刊した『女性文化資料館報』を起源とする。

研究所の改組に伴い誌名を変えながらも刊行を続け、1998 年『ジェンダー研究』第 1 号を刊行、今日に至る。2018 年刊行予定の『ジェンダー研究』は、21 号（通巻 38 号）となる。



『女性文化資料館報』創刊号



『ジェンダー研究』創刊号

海外の研究者との研究交流の成果が、特集企画として結実

2017 年 11 月、新『ジェンダー研究』の投稿募集を開始した。同時に、特集企画の編集も開始。テーマを「Gender and Political Leadership」とした。

この特集企画は、日米女性政治学者シンポジウム（Japanese American Women Political Scientists Symposium 本報告書 116 頁参照）と、ジェンダー研究所との国際的な研究交流の成果である。ジェンダー研究所との共催で 2017 年 3 月に開催された国際シンポジウム「なぜアメリカで女性大統領は誕生しなかったのか?」の成果に、関連論文を加えて構成する。ジェンダーと政治リーダーシップの分野における、国内外の第一線の研究者の研究成果を掲載する予定である。

また、国内外のジェンダー研究に関する優れた文献書籍の書評を多数掲載することで、世界のジェンダー研究のトレンドを伝える企画も進行している。

2018 年 6 月には、新『ジェンダー研究』が刊行される。ジェンダー研究の重要 이슈 に学術的に取り組む言説空間の創設を目指す、新雑誌の誕生である。

『ジェンダー研究』編集方針

1. 『ジェンダー研究』（以下、本誌）は、学際的・国際的なジェンダーに関する最新の研究成果を発信し、グローバルなジェンダー研究の発展に寄与する。
2. 本誌は、特集記事・投稿論文・書評からなる。
3. 本誌は特集記事を企画し、時宜にかなったもの、国際的な関心の高いもの、新領域を開拓するものなど、現在のジェンダー研究にとって重要であるテーマで、質の高い論文を掲載する。
4. 投稿論文は、国内外・学内外を問わず公募し、厳正な審査を経て掲載することで、質の高い学術論文の国内外への頒布を進める。
5. 書評は、国内外のジェンダーに関する書籍を厳選し、最先端の研究動向の紹介およびそれについての考察を加えた論評を行う。
6. 本誌の刊行により、国内外・学内外のジェンダーに関する研究の発展を促進し、グローバルかつ有機的な研究交流の構築を目指す。そして、国立大学法人として、男女共同参画社会の実現に貢献する等の、社会的要請にも応える。

（2017 年 10 月 27 日改訂）

■『ジェンダー研究』21号（2018年6月刊行予定）編集委員会

編集委員長

申 瑛榮 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

編集委員

石井クンツ 昌子 お茶の水女子大学ジェンダー研究所、基幹研究院人間科学系

足立 真理子 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

天野 知香 お茶の水女子大学基幹研究院文化科学系

水野 勲 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系

森 義仁 お茶の水女子大学基幹研究院自然・応用科学系

Karen Ann Shire お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所／
ドイツ デュースブルグ・エッセン大学 教授

荒木 美奈子 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系

石丸 径一郎 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系

倉光 ミナ子 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系

学外編集委員

三浦 まり 上智大学法学部

金井 郁 埼玉大学経済学部

小浜 正子 日本大学文理学部

編集事務局

佐野 潤子 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

仙波 由加里 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

和田 容子 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

2) プロジェクト報告書 IGS Project Series による成果刊行

2017 年度は、成果発信シリーズ IGS Project Series を 3 冊刊行した。内訳は、IGS セミナー成果 2 冊、国際シンポジウム成果 1 冊である。年度内に実施された他の事業成果の取りまとめも進められており、2018 年夏にさらに 5 冊の報告書が刊行される予定である。オンライン公開用のウェブサイトページも整備された。引き続き、事業成果を、早期に、かつ国際的に発信することに努めたい。



IGS Project Series 12

国際シンポジウム

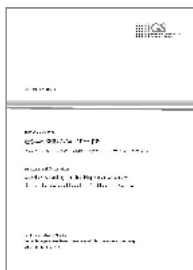
明治期のジェンダー、宗教、社会改良



IGS Project Series 13

セミナー

日本における女性と経済学



IGS Project Series 14

国際シンポジウム

最も幸せな国のジェンダー平等

ノルウェーのジェンダー研究とファミリー・ライフ・バランス

(2018 年夏刊行予定)



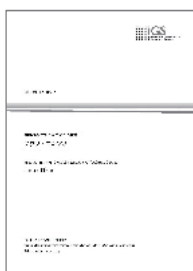
IGS Project Series 15

国際シンポジウム

デモクラシーのポスターガール：

冷戦期日本のミスコン女王とファッションモデル

(2018 年夏刊行予定)



IGS Project Series 16

特別招聘教授プロジェクト特集

ラウラ・ネンツィ

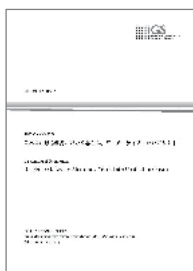
(2018 年夏刊行予定)



IGS Project Series 17

2016 年度

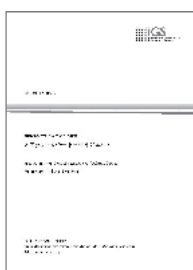
生殖医療で形成される多様な家族と当事者の
ウェルビーイングを考える研究会 報告書



IGS Project Series 18

国際シンポジウム

日本における独身、ひとり暮らし、ワークライフ・コンフリクト
(2018 年夏刊行予定)



IGS Project Series 19

特別招聘教授プロジェクト特集

アネッテ・シャート＝ザイフェルト
(2018 年夏刊行予定)